

平成24年度

## 公益財団法人丹後地域地場産業振興センター事業計画

### はじめに

平成24年度は、原発事故や原油価格の高騰による電力の節減と大幅な電気料金の値上げなどにより、ものづくりを主体とする地域中小企業においては、非常に厳しい1年となることが予想され、消費動向のますますの縮小が懸念されます。

当地域においても機械金属産業をはじめとする製造業、観光関連産業への波及が懸念されるところです。

このような状況の中、当センターは平成24年度をもって公益財団法人へと移行します。当センターへの期待、要請は各方面からますます高まり、より一層の事業の公益化、情報公開化の推進に取り組むとともに、役職員に対しても公益性に富んだ企画・実行、責任が強く求められるものと考えられ、以上の状況を踏まえ、次のとおり事業計画を策定しました。

## I 新商品・新技術開発事業（公益目的事業1）

### 1 地域ものづくり支援事業

企業からの要望を受け、関係機関・団体の協力の下、商品開発、販路開拓の支援事業を実施する。

## II 人材育成事業（公益目的事業1）

### 1 販路開拓研修事業（京丹後市地域再生協議会事業）

京丹後市地域再生協議会が受託する厚生労働省地域雇用創造推進事業を活用し、農産物等を販売するためのマーケティング研修を実施する。

### 2 手織体験講座

研究開発棟織物開発室を織物産地のPRの場として活用するため、手織体験を実施する指導員を養成する。

## III 需要開拓事業（公益目的事業1）

### 1 丹後ブランド商品認定事業

#### (1) T a n g o G o o d G o o d s 認定事業

事業開始以来14年目を迎えるT a n g o G o o d G o o d s 認定事業を今年度も実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進するとともに特定保健食品の普及により、商品表示及び陳列についても一層の厳格化が指導されており審査基準においても認定品としてのコンプライアンスはもとより、着色料、保存料等についても再度製造者の意識を高め、T a n g o G o o d G o o d s としての質的向上を図る。

また、認定品へのT a n g o G o o d G o o d s ロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品として差別化を図る。

- T a n g o G o o d G o o d s 認定推進協議会開催
- T a n g o G o o d G o o d s 認定募集
- T a n g o G o o d G o o d s 審査会の開催

○平成24年度認定品のT a n g o G o o d G o o d s 認定品カタログの作成（BtoB）とバイヤーへの配布

(2) 丹後ブランド商品の販売促進と見本市の開催

第14回目となる丹後ブランド商品見本市を宮津市において開催し、丹後ブランド認定商品を中心とした地場製品の地域内PR及び流通促進を図る。

また、T a n g o G o o d G o o d s の商品流通を促進するためのPR展示を実施する。

2 商談会出展事業

地域外販路の開拓を目指し、各種商談会へT a n g o G o o d G o o d s 認定事業者を派遣し、製造者の商品提案力の強化及び新販路の開拓に資する。

3 京都丹後ブランド産品会の支援

T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者のなかから地域外へも、その販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド産品会」の活動を支援し、新商品開発、販路開拓等の事業を実施する。

4 地域特産品販路開拓事業

(1) 地場産品製造者の現状を把握し、販路開拓と地産都消をコンセプトに都市部等における販路を確保し、T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者へ販路を紹介するとともに、売れる商品の開発指導を行う。

(2) 丹後のええもん うまいもん展開催事業

京都丹後ブランド産品会との共催により、京都、大阪、名古屋等の大都市圏において丹後産品及び地域紹介を目的として、「丹後のええもん うまいもん展」を開催する。

5 ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業

平成22年度に構築した丹後産品集積活性化システムを活用し、R e . 丹後有限責任事業組合を中心に、丹後産品の集積と販路開拓を引き続き実施していく。

また、集客施設に設置しているデジタルサイネージ及びインターネット上に掲載している丹後放送局（動画サイト）を活用し、丹後情報の発信と上記システムのポータルとなるECサイトへの誘客を図る。

#### 6 展示ギャラリー活用事業

地域でものづくりに励む、企業、団体、個人等の作品発表の場として、1階展示ギャラリーを提供するとともに、センター及びセンター出展者会による情報発信の場として活用し、地域誘客の一助に資する。

#### 7 染色体験・手織体験及び資料展示事業

観光客等が地域資源である丹後ちりめん及び織物に対する理解を深め、地域産業に触れてもらう機会を創出するため、網野染織研究会「茜」の協力を得て体験、展示事業を実施し、情報発信及び誘客の強化を図る。

#### 8 CATVによる地場产品介绍事業

センターに設置されたCATVスタジオと連携し、地域内外へ地域資源（観光・産品・産業）を紹介する。

### IV 情報収集・提供事業（公益目的事業1）

#### 1 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工、提供し、アミティ情報の発行により各種情報をタイムリーに提供し、業者の経営に寄与するとともに、業者との意思疎通の一助に資する。

#### 2 センターホームページによる地域資源発信事業

地域情報、センター情報、産品情報、地域企業情報等をホームページにより発信する。

また、SNSツールを活用しセンターホームページへの誘導を図るとともにタイムリーな情報提供を行う。

#### 3 アミティ丹後出展者会

アミティ丹後出展者会を随時開催し、即売室情報を基に商品展示方法、

企画展開催などの情報交換、研修、事業を行う。

#### 4 物産展等の販売機会情報収集提供事業

各地域地場産センターや地域内外のイベントなど地域PRに有効な物産展情報を収集し、出展意欲のある企業へ情報提供を実施し地域PRの機会を提供する。

#### 5 観光情報発信事業

(1) 当センターに事務局を置く、京丹後市観光協会と協同で丹後地域の観光を来館者へ提供するとともに、ホームページ、各種物産展等へ共同出展し、丹後の観光情報を発信する。

(2) NPO 法人アジア交流センター及びきょうと観光ICT促進協議会との関係により、外国人観光客の誘致、利便性の向上による丹後地域のインバウンド事業の推進を目的として、翻訳メディアを活用するとともに地域誘客に向けてのコンテンツの作成を実施する。(新規)

#### 6 農産物情報のライブラリ化 (新規)

農産物情報(品目、産地、特徴、産出量、時価等)をクラウド上にライブラリとして整備することで農産物の効率的な流通の促進、食の安全の担保及び農業経営・政策立案の基礎情報を整備する。

### **V 地場産品展示普及支援事業 (公益目的事業1)**

#### 1 地場産品常設展示

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを目指す常設展示即売事業は、地域産品の総合展示場として「丹後ちりめん」をはじめ地場産品約1700品目に及ぶ製品を展示している。

来館者の注目も高く、観光関連業者からの紹介も年々増加しており、地域の観光資源としての機能を持ちつつあり、今後も年間を通して丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努める。

#### 2 丹後産品情報発信事業

コンシューマー向けカタログ（中元・歳暮・通年の3種）の作成配布、ショッピングモールの運営を行い、丹後産品を全国に向け広く周知する。

- （1）エンドユーザーへの丹後産品のPR、新たな丹後ファン獲得を目指し、近畿地場産センターとの連携によるショッピングモールをポータルサイトとして、ECサイト運営を引き続き実施する。
- （2）上記ショッピングモールと連動し、歳暮及び中元期の通信販売カタログの作成と配布、両期間以外の通年カタログの配布を行う。

## **VI 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業（公益目的事業1）**

### **1 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業**

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、京都市内に開設したホッと丹後を継続運営する。

### **2 販路開拓・PR事業**

宮津市、京丹後市、与謝野町との連携により、各市町の特産、地域PRを目的としてチャレンジショップを情報発信の拠点として、活用・展開する。

## **VII 会館提供・コミュニティー事業（収益事業1）**

### **1 会場提供事業**

センター2階施設を地域住民、企業、団体等の会議、研修会、展示会等に貸し出し、地域コミュニティーの場として地域活性化の一助に資する。

## **VIII 誘客販売事業（収益事業2）**

### **1 販売事業**

来館者等の利便に資するため、土産品としてのキーホルダー等の販売を行う。

### **2 たんご朝市の開催**

たんご朝市は、開設12年を迎え、地域住民・観光客等から好評を得ている。朝市会館建設による毎日開催の要望があるものの、今年度は、引き

続き前年同様の開催方法とし、生産者が自身の産物を直接、エンドユーザーに販売する方式で運営することとし、朝市の会場を提供する。

## Ⅸ 管理事業

### 1 理事会・評議員会の開催

センターの適正・円滑な運営を図るため、理事会・評議員会を開催する。

開催予定日	主な審議内容
平成24年5月	平成23年度事業報告・決算報告ほか
平成25年3月	平成25年度事業計画案・予算ほか

### 2 公益法人制度改革対策事業

平成24年4月1日をもって公益財団法人へ移行する。